

『迅速な復旧・復興に資する再生資材の宅地造成盛土への活用に向けた基本的考え方』のとりまとめについて

検討の背景・目的

- 東日本大震災により、太平洋沿岸部の被災地域では、津波によって市街地が壊滅的な被害を受け、大量の災害廃棄物が発生し、復旧、復興の阻害要因となっている。
- この災害廃棄物を宅地造成における土木資材として有効活用するため、宅地造成における盛土材料としての品質、宅地造成盛土の設計及び施工における留意事項を示すことにより、被災都市における迅速な復旧・復興に資する。

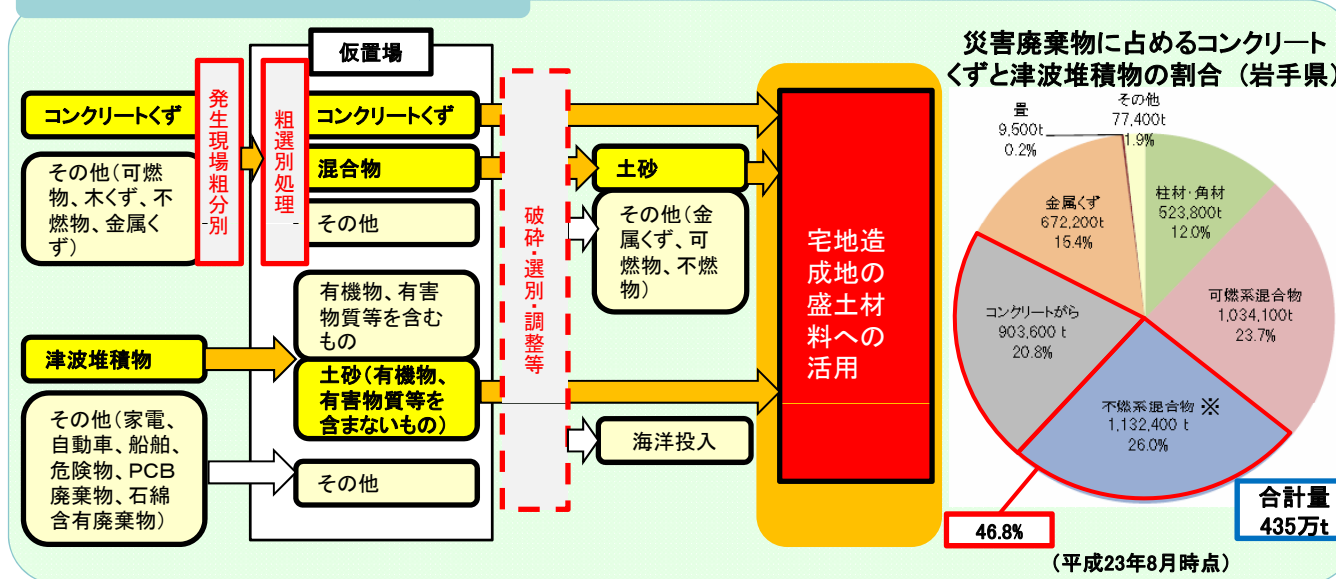
検討内容

- がれき活用に関連する過去の事例や既往の文献等について収集・整理し、得られた知見から活用の方策・方向性を整理
- 地震地盤工学、自然災害学、地震土木工学等の有識者へのヒアリング及び検討会を実施

検討成果

- 再生資材を宅地造成盛土へ活用するためのガイドラインとその解説・説明を「迅速な復旧・復興に資する再生資材の宅地造成盛土への活用に向けた基本的考え方」としてとりまとめ（3月27日 公表及び関係地方公共団体へ通知）
 - － がれきに含まれる資材のうち盛土材料として活用可能な資材の種類及び品質
 - － 設計の際の留意事項として、盛土の安定性や要求品質を満足しない盛土材料の改良方法等
 - － 施工の際の留意事項として、試験施工の項目及び方法、盛土材料の品質管理、施工に関する記録管理等

盛土材料に活用する資材の分類と割合



品質基準

要求項目	要求品質
最大粒径 粒度組成	300mm以下
強度 (コーン指数)	400kN/m ² 以上
塩化物含有量	原則1mg/g以下
電気伝導度	200mS/m以下
水素イオン濃度 (pH)	6以上9以下
吸水膨張特性	膨張比3%以下